

第6期ジュニア・アカデメニア
【若者の緊急提言】コロナ禍で見えた日本の課題と解決策
「科学技術」グループ サマリー

研究テーマ：医学分野のプレプリント論文とその情報流通

※プレプリント論文：学術誌の査読（審査）を経ていない論文。

1. 解決すべき課題

- ・プレプリント論文は、査読を経ないため迅速に公開されるメリットがある一方、正確性や信頼性が低いものもあり、玉石混淆。
- ・一般社会におけるプレプリント論文の知名度は低く、活用方法が未成熟。

2. 問題意識

- ・プレプリント論文をウェブ上（プレプリントサーバー）で公開・共有することのメリットとコロナ禍で見えた問題。

① メリット

- ・査読を待たずに投稿でき、投稿料の負担もない。論文数の少ない若手研究者が研究成果を世に問う場所として活用しやすい。
- ・有料の学術誌とは異なり閲覧も無料であり、多くの研究者が参照しやすいため、研究者間での引用や議論にも活用されやすい。
- ・一部のサーバーには、プレプリント論文に日時も記録された「DOI（デジタルオブジェクト識別子：インターネット上の文書に恒久的に与えられる識別子）」が付与されるため、誰が先に研究成果を出したかが明確になり、「先取権」を確立できる。

※DOI：Digital Object Identifier

② 課題

- ・コロナ禍で、医学分野のプレプリント論文が急増
(例：「medRxiv：メディカルアーカイブ アメリカ」
2019年：789本 → 2020年～2021年16,607本)
- ・医学の研究成果を迅速に共有できた反面、不確かな情報（“コロナで若者は重症化しない”、“〇〇ワクチンが効く”等）が一般の人々に広く流通し混乱を招くケースが散見された。
- ・プレプリントサーバーからプレプリント論文を取り下げても、ウェブ上でコピーされたものが閲覧され続ける可能性がある。

- ・特にSNS（ツイッター等）では、プレプリント論文の内容を引用して投稿する際、不確かな情報であることを明記する義務がなく、情報流通の適正化が急務。

3. 現在みられる課題解決策とその問題点

- ・プレプリントサーバーの運営会社は、投稿内容の事前確認を実施している。但し、迅速性を重視しており、盗作でないか、非科学的な内容でないか等の簡易な確認のみ。
- ・SNSでは虚偽情報の投稿に関する規定はあるが、プレプリント論文は一概に虚偽とは断定できず、不確実な情報でも容易に掲載可能。

4. グループとして考える課題解決策

～デジタル社会に即した「情報流通の適正化」～

① プレプリントサーバー事業者：

DOIの義務化と二次利用時の標準マークの付与

- ・投稿されるプレプリント論文への「DOI（デジタルオブジェクト識別子）」付与を義務づけ、情報が世の中に拡散されても、誰の研究成果に基づくものなのかを明確にする。
- ・二次利用に関する規定がプレプリントサーバー事業者によって異なるため、二次利用でプレプリント論文を利用する際、DOIを組み込んだ標準マークを付与する。
- ・研究者が自身の研究成果について責任を負うことになり、投稿する際の自制心を働かせる仕組みにもなる。

② SNS事業者：プレプリント論文の引用に関するポリシーを追加

- ・SNS利用者に対して、投稿時にプレプリント論文を引用する際、標準マークやプレプリント論文の引用であることの明記を義務付け（違反ユーザーに軽微な罰則）。
- ・プレプリント論文が情報源である投稿をリスト化して、利用者に公開する。リストをもとにSNS事業者が違反（引用の明記が無い等）を監視し、違反者には警告を発する。
- ・プレプリント論文の内容の真偽が後に判明した際、リストに真偽を追記し、一連の投稿内容の確からしさを周知する。

5. 残された課題

- ・自由な情報発信の場であるSNSにおいて、プレプリント論文に関するポリシーの追加が利用者の手軽さを阻害する可能性。